



## 資源と時間を大切にした図画工作科の授業作り

教育学部 教授 川路 澄人

小学校図画工作科の授業において水彩絵の具を使用する機会が多い。実際の授業の様子を観察すると、多くの児童がパレットに必要以上の絵の具を出し、そのほとんどが使われることなく、片付けの時間に水道で流されていく。こうした状況は水資源はもちろん、水彩絵の具の無駄遣いであるとともに、それを洗う時間の無駄でもある。

本来、授業時間は学習する時間であるはずが、片付けに時間がかかり、教師は片付けの時間を計算しながら、学習時間を削ることとなる。図画工作科の学習を成立させるための学習時間の確保が重要になる。

本研究は、こうした二つの無駄を解消するために、パレットにアルミホイルを巻くことにより、水道で洗う時間の短縮、使用する水道水の削減が可能になることを目的としている。洗う時間を短縮することにより、着色する活動の時間を増加させるとともに、水道に並ぶ時間も削減できる。さらには水彩絵の具を洗った水の量を削減することは、水資源の再生にかかるエネルギーの削減、そして海の環境への影響を削減することにもつながると考えている。また使用したアルミホイルは濡れたトイレットペーパーで絵の具を拭き取ることにより、複数回使用することが可能である。

またこの方法は現職教員対象の研修会において実際に体験してもらうことにより、その実効性と有用性について多くの現職教員から評価を得ている。

